



山楸
 右史
 岩城實記
 十七
 十八

^ 13
 3304
 9



翻 譯 書
 倭 軍 書
 唐 軍 書
 隨 筆 物
 國々名所
 近世戦争書類
 右之外數品は座山宮古説々程奉教也

繪 本
曲亭馬琴之作
 其外諸先生作

書 本
軍書
 敵討
 諸家駿動
 御捌物

滑稽物

書物債本所
東京牛込細工町
 誠光堂 池田屋清吉

池清



定概 寄記 卷之 拾七

目錄

大正十年八月廿九日寄
 本大學出版部 贈



一 地 區 多 王 在 於 子 小 代 之 也
ちきり せん かい ころ ちい けい ち
 何 小 事
なん じょう じ
 系 能 智 和 尚 右 急 患 心 之 也
けい ねい ちわ じょう ぐい げん しん しの ち
 川 氏 事
かわ じ じ

油漬

岩城宮紀表へ括七

地^ち之^の系^{けい}を^を為^なす^すに^に代^{しろ}は^はせ^せぬ^ぬべ^べし^し
系^{けい}之^の智^ち和^わ尚^{じやう}古^こを^を思^{おも}ふ^ふを^を形^{かたち}を^を
事^{こと}

さ^さら^らに^にし^して^て次^{つぎ}に^に中^{ちゆう}の^の見^{けん}
東^{ひがし}に^に西^{にし}を^を通^{とお}す^すを^をせ^せ
事^{こと}大^{おほ}に^にし^して^て人^{ひと}を^をあ^あら^らわ^わす^す

かりたつこの草く小牌まへ
遊らんどうりいそまはたけ
とめしるまよまはりねを院ま
よこしねをまへくさうりや
くさゆのののけあぐま
あふにねをたけあぐま
たけいしんまあねが次序
いねをまへつよあぐり推し
まへ

あつ坊らうまはゆく
隆しあのしんまはまのま
子ありあまはゆが
地ありあまはゆが
まはゆが
つけ陳まはゆが
あまはゆが
あまはゆが
あまはゆが

りく 隠^{ひん}まをさへくおせうれ
をり 隠^{ひん}まをさへくおせうれ
よと 折^て柳^{やなぎ}を 隠^{ひん}まをさへくおせうれ
も あとろくは ちんめい
か ちんめい
く ちんめい
た ちんめい
ちんめい

かと 折^て柳^{やなぎ}を 隠^{ひん}まをさへくおせうれ
佛^{ぶつ}具^ぐを 隠^{ひん}まをさへくおせうれ
床^ど板^{いた}を 隠^{ひん}まをさへくおせうれ
ちんめい
ちんめい
ちんめい
ちんめい
ちんめい
ちんめい
ちんめい

よふ地をいそぎよきく 夕陽代直ま
のたをより入たまひさるあり
あはれなりおふらばとあけさせ
にりふそくをのれ地まあ
このやまをせしとまるとせ
うこぶらと院まをうら
ふのいふまはくまはく 柳より
つらさをよりあらうとまらる

院まいづかよ南まや六道教
まの地をいそぎよきくハ少
年の祭をまらるのまは院
まのまをいそぎよきくハ少
つらさをよりあらうとまらる
いそぎよきくまはくまはく
いそぎよきくまはくまはく
いそぎよきくまはくまはく

よきも亦くは新じこの草入
をこころしく新す事なり今ノ友
さくらに〜と立さるるを平
ハ喜みつけし珍美の仕や〜
いづれもぬ〜この垣をぶ
ぬとりや事〜のあつしや
主めをせえたる〜きり
けしめをさる〜と

中申き〜ゆのありと
院を〜の院をさる
つけ〜院を〜
ま〜院
ま〜院
たれ〜地
この少年を〜目
〜

くまーたーくー白杖あー少
年よりた国よりいんかー何
せんたーいさーいんかーいん
夜助けーいのたーいん
やーあーいんかーいん
国原あーいんかーいん
り今をまへるまーあー
とた意ち想のいんかーいん

下かーいん白杖のいんかーいん
ていんかーいんかーいん
想の地よりいんかーいん
いんかーいんかーいん
いんかーいんかーいん
いんかーいんかーいん
いんかーいんかーいん
いんかーいんかーいん
いんかーいんかーいん
いんかーいんかーいん

わづらう白牝をくまゝにぬき
らぎるのちゑりありとまらば
眼をぬきそとまのまゝくち
わづらうハいろくいろくをぬき
あぢあぢ掛をぬきさけをぬき
ようちたきぬぬぬ院まを
せぬらげにころりあみへ大
物へのいのちのまゝよとるま

とらちや死ぬゆゆいろく
あぢあぢへませぬたひを又
糸をたつぬくいろく
いろをぬきゆきをぬき
あぢあぢにぬきまぢ
ひあーされまゆぎ
ものとのあぢまぢ
すまらうあぢまぢ

一書一あれに物事ありの
しし冷とありしあましき俵
をんを命しりさぬ坊主の
死もさうたりたるよんこいめ
寺より舟へゆくはやいな
まよふやまある事なかり
さぐり物坊主をまらる
らちるるのびのあらん

ききしちまふあふあふ
のののののののののの
りてねうらら白紙なる
婦をせむしとち路のわの
りらるるらんもまらり
りらるるらんもまらり
りらるるらんもまらり
地をあらうるにまらるる

あつむしこしつゝちか
かむしつゝちかむしつゝちか
しつゝちかむしつゝちか
ちかむしつゝちかむしつゝちか
むしつゝちかむしつゝちか
ちかむしつゝちかむしつゝちか
むしつゝちかむしつゝちか
ちかむしつゝちかむしつゝちか
むしつゝちかむしつゝちか
ちかむしつゝちかむしつゝちか
むしつゝちかむしつゝちか
ちかむしつゝちかむしつゝちか

むしつゝちかむしつゝちか
ちかむしつゝちかむしつゝちか
むしつゝちかむしつゝちか
ちかむしつゝちかむしつゝちか
むしつゝちかむしつゝちか
ちかむしつゝちかむしつゝちか
むしつゝちかむしつゝちか
ちかむしつゝちかむしつゝちか
むしつゝちかむしつゝちか
ちかむしつゝちかむしつゝちか
むしつゝちかむしつゝちか
ちかむしつゝちかむしつゝちか

つまぢぢぢの初^{はつ}後^ごありあ^い酒^{しゆ}
 の世^よとら^らり^りあ^あが^が知^ちを^を現^{げん}
 能^たら^らる^る知^ちの^のこ^こも^もあ^あ信^{しん}
 せ^せく^く所^{しよ}敷^{しき}を^をと^とけ^ける^るもの
 又^{また}侍^{しやう}り^りさ^さら^らり^りた^たま^ま無^なあ^あ一^{いっ}
 ぢ^ぢの^のぢ^ぢら^らり^りの^のぢ^ぢせ^せめ^め
 り^りの^のぢ^ぢら^らり^りの^のぢ^ぢと^と地^ちを^をぢ^ぢ
 川^かを^を降^{くだ}も^もぬ^ぬが^が本^{ほん}條^{じょう}の^のぢ^ぢも
 ぢ^ぢ侍^{しやう}り^りさ^さら^らり^りた^たま^ま無^なあ^あ一^{いっ}

汗^{あせ}を^をあ^あら^らう^う一^{いっ}ぢ^ぢり^りたち^{たち}の
 ぢ^ぢら^らり^りの^のぢ^ぢら^らり^りの^のぢ^ぢぢ^ぢ
 と^と殿^{でん}後^ごを^を流^{なが}し^しぬ^ぬの^の神^{かみ}を^を志^し
 ぢ^ぢら^らり^りの^のぢ^ぢら^らり^りの^のぢ^ぢぢ^ぢを^をあ^あ手^てを^を
 つ^つま^まぢ^ぢら^らり^りの^のぢ^ぢら^らり^りの^のぢ^ぢぢ^ぢ
 ぢ^ぢら^らり^りの^のぢ^ぢら^らり^りの^のぢ^ぢぢ^ぢ
 う^うぢ^ぢら^らり^りの^のぢ^ぢら^らり^りの^のぢ^ぢぢ^ぢ
 ぢ^ぢら^らり^りの^のぢ^ぢら^らり^りの^のぢ^ぢぢ^ぢ

此書の形は... 藝文
を... 知...
... 我...
... 果...
... 伊...
... 母...
... 此

ぬ... 医...
... 母...
... 何...
... 果...
... 女...
... 子...
... 村...
... 返

下よ〜とや〜付〜あ〜
政武公一海〜
隆〜
さ〜
風ち村信〜
母〜
と〜
新造〜

中よあ〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜

あはれに帰るもよき由長あり
清くもよきもよきもよき命に
さうらもよきもよきもよき命に
あはれに帰るもよきもよき命に
あはれに帰るもよきもよき命に
あはれに帰るもよきもよき命に
あはれに帰るもよきもよき命に
あはれに帰るもよきもよき命に
あはれに帰るもよきもよき命に
あはれに帰るもよきもよき命に

とよまたあはれに帰るもよき命に
あはれに帰るもよきもよき命に
あはれに帰るもよきもよき命に
あはれに帰るもよきもよき命に
あはれに帰るもよきもよき命に
あはれに帰るもよきもよき命に
あはれに帰るもよきもよき命に
あはれに帰るもよきもよき命に
あはれに帰るもよきもよき命に
あはれに帰るもよきもよき命に



せのくま目をつらみひつらん
みろお抄巻とらひあざうい
しきいしりさぬうあといと書
深の袖を袖さおしあそ志
たしりぬをもちかかーめん
しきやうりて深をさくひ
あつ信しえまを来隆のあのお
りしが雪水のた先都よりる

しし信ちくし七年以せん
このあまくしあつんあり都より
ちろくしあちしちありしを
る百あつ信が命しうし奏
用あし母ひまよしたーヤ
ししあつんあつんあつんあつん
あつんあつんあつんあつんあつん
あつんあつんあつんあつんあつん
あつんあつんあつんあつんあつん

あひのふにまのしこち想ひ
ちりりありあ〜〜〜お高
ひ〜〜あなあ〜〜地蔵
筋代素之の爲り〜〜怒人
〜と近〜く〜〜〜らあ
中へ〜〜〜を〜〜〜ら
金を〜〜〜つげ〜〜ら
皆あ〜〜〜と〜〜と
都を

さ〜〜のわ〜〜〜と
りり〜〜〜智識なり

山崎家日記卷七

岩城実紀卷之拾八

目録

一 万壽姫河原より入道^{さいど}の事
并 親智^{ちち}が為^か馬^まを^ま東^{あづま}山^{やま}へ^いつた
事

此巻の行状一巻六年一十月の事

一 万壽姫河原より入道^{さいど}の事

一 親智^{ちち}が為^か馬^まを^ま東^{あづま}山^{やま}へ^いつた

事

一 万壽姫河原より入道^{さいど}の事

一 親智^{ちち}が為^か馬^まを^ま東^{あづま}山^{やま}へ^いつた

事

一 万壽姫河原より入道^{さいど}の事

一 親智^{ちち}が為^か馬^まを^ま東^{あづま}山^{やま}へ^いつた

事

1 此物無...
...
...
...
...

四

定世定紀卷之八

万壽姫所著少遊の定世の事
系観智如為定世の事
了事

相心...
...
...

昔し〜 妻を〜 子〜 夜
 父母の〜 宗を〜 ね〜
 をの〜 妹〜
 苦〜 命〜
 く〜 命〜

自状〜 命〜
 昔〜 命〜
 の〜 命〜
 命〜
 命〜
 命〜
 命〜
 命〜

ありに背きたまはけぬの事
のゆりくはたまふよこの世よ
おのひをくくつあよたの
ゆをまよりの便りをあつた
りかまて苦痛をたぬめ
しそとろそやよ月をんひ
ふきたて新あやの志
ふぬるもそ海もあ一東

るに先覺を同じたりし
おあにるありあはたけ
ゆらふむくひのちとを志
りたゆ一抜のこあはにの
の男中たまふのりく
人のこふみをもつらぬ
あつた三つらぬいたあ
つらより一三つたたまふ

や 齋^{さい}のりめすちの草^{くさ}をみよま
を つね^{つね}—— 飛^と候^{こう}放^{はう}逐^{じく}のま
か—— 石^{いし}海^{かい}とちうふく清^{せい}り
つりぬ—— ことよさむさうり次^{つぎ}中^{ちゆう}
り中^{ちゆう}たるあさりまちゆの珍^{めづ}
美^みのちをき—— ありはた
りれと死^し骸^{がい}をいふ—— 踏^ふが
踏^ふ—— ちふたせうまの程^{ほど}

せま—— 殺^{ころ}しむらんあり
さぬあり—— ちやちやが死^し骸^{がい}
の海^{うみ}に—— 火^ひの玉^{たま}とひち
南^{なん}のふく—— びり—— 星^{せい}提^{だい}
すの政^{せい}をき—— ぶつ感^{かん}あやと
際^{さかい}も—— あもひき—— せちのま
折^おり—— ちやちや他^たをがたち
—— けみき—— ちやちや

あしとらりてあつらふもいふらうーや
時よ廿の夜をかくしせをこらに
とあさけけあー後のむくひの
あどをちりーゆらにやらの足
いふしうぶさる生れあねあ
あふんの子供あふんいさうー
やと父をいさるをわらを
かぶるが隣の荒原まゝあうむ

りーーーんをちまのふのふあり
うーまー生れありさうま
をさるめ次甲申午に秘業あ
潤利まうーあひ又とま
よーうーせんと繁しあうら
き川とあひしあうーあ
年の男の子十二もあふにまよ
いふふあふしあふま

しと依あくしれあがさくちや
 七人の甲はよ手よめくかんと
 忍謙きたらみ山深鬼夜叉と
 母方の精名あ階りのいたち
 我れあちとくまさんのお徳
 たりとまはる免てみよの次牙
 をひらけらせ近まらけ
 しこちがたあまらるるるる

ちしあまらるるるるる
 白子岡のりあその年と
 りりあまらるるるる
 うか鳥人のまあ我子の小末
 ちの年一七はあるるるるる
 甲はよ手よめくかんと
 母方の精名あ階りのいたち
 我れあちとくまさんのお徳
 たりとまはる免てみよの次牙
 をひらけらせ近まらけ

ひらふゆもあはこねをあら
秘葉ひやくの用もちのしほの輝せうれをたぐ
つれまねうしと照あけくねまら
くしーらるる暮くれ色いろ夏あつまら
秋あきの空そらのありりれをこ
ゆらと今いまの空あそらの風かぜあり
とて寺てら院いんの傍かたはらに花はなをま
ていとうりりれがまははは

をまらへてまゆの中なかに
あはら入いれぬる寺てらまら
何事なにごともやらのやまを見
ざるやこねが高たかの空あそらのた
まありの輝せうれをたぐり
ほい今いまの空あそらのまら
ゆのりやまらあまら
あまらありとのりれまら

二層をこきりてありそを
さやしのついでにふんが
の命とつて我をこきり
とてそのむらひ子孫を
てりまう海まうきつ
あしと恥まうかきま
いうりたのれを甲の
め我能えのあをゆ

日本をこきりて
ろろろろろろろろろ
自在の文とありて
友も我がこきりて
公のあひまをこきり
るあつてあつてあ
りふさあまが事
トつて我をこきり

リおせんもその命を奪ひ
て成人あせしむるは
あまこしゆくあるは
しを我をるはあまこしゆ
屍をみみくはあまこしゆ
とてその中をくはあまこしゆ
源をくはあまこしゆ
らあまこしゆの命を奪ひ

あまこしゆの命を奪ひ
とてその中をくはあまこしゆ
源をくはあまこしゆ
らあまこしゆの命を奪ひ
とてその中をくはあまこしゆ
源をくはあまこしゆ
らあまこしゆの命を奪ひ

あゝと云ふ所を つらみ七轉八倒
し〜く〜な〜な〜な〜な〜な〜な
にちまよふらうな〜な〜な〜な〜
と〜な〜な〜な〜な〜な〜な〜な
更〜に〜な〜な〜な〜な〜な〜な
ちまよふ〜な〜な〜な〜な〜な〜な
あま〜な〜な〜な〜な〜な〜な〜な
より〜な〜な〜な〜な〜な〜な〜な

あゝと云ふ所を つらみ七轉八倒
し〜く〜な〜な〜な〜な〜な〜な
にちまよふらうな〜な〜な〜な〜
と〜な〜な〜な〜な〜な〜な〜な
更〜に〜な〜な〜な〜な〜な〜な
ちまよふ〜な〜な〜な〜な〜な〜な
あま〜な〜な〜な〜な〜な〜な〜な
より〜な〜な〜な〜な〜な〜な〜な

あゝのちう我う〜みをも
まづ一運く〜三年のちうあ
まづ一その名は〜あ
んが〜我をたやまづ〜あ
ト〜あを〜と法〜あ
てんあまを〜あ〜我天帝
の命を〜あ〜大残害をのぞ
く〜あ〜又我を〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ
よ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ
んや〜あ〜あ〜あ〜あ
完〜あ〜あ〜あ〜あ
き〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ
心〜あ〜あ〜あ〜あ

川と畔^{ハナ}んぞ、息^{いき}と^とたりり
あふものぞ、ちよあきらまき大
壻^{たい}三^{さん}か^かり^り、女^{にょ}抱^だを^をれ^れが^が志^しを^を
う^うく^くし^しく^く、公^{こう}化^け年^{ねん}し^し、^ぶに^に共^き
と^とし^して^てこれ^{これ}より^{より}日^ひの^の強^{こゝろ}き^き
く^くけ^けを^をく^く、^おの^のち^ちり^りし^しく^く
く^くく^くし^しく^く、^てれ^れ天^{てん}珠^{しゆ}を^をか^か
ひ^ひり^りし^しく^く、^ある^るく^くし^しく^く

の^のの^のの^のひ^ひそ^そく^くよ^よた^たか^か
せ^せの^のお^おま^まし^し、^たけ^けま^まの^の公^{こう}化^け年^{ねん}
銀^{ぎん}智^ちあ^ある^る、^つら^らの^の中^{ちゆう}よ^よに^にま^ま
お^おを^をか^かく^く、^せき^きひ^ひて^てち^ちる^る
と^とた^たの^の中^{ちゆう}あ^ある^る、^ある^るく^くに^にま^ま
身^{みん}多^た寺^じの^の書^{しよ}、^ある^るが^がた^たく^くり^り
と^とく^くの^のあ^あく^く、^ある^るく^くに^にま^ま
た^たく^くし^しく^く、^ある^るく^くに^にま^ま

を乞ひしつたまはしと路を用ひし
うめを考へて馬を由とすもの
これをも念及し一紙にけりて又
軒陽もほつてくつて一書
の東よりやうにけりてのあり
す東山よりある人の信のあり
たれたうの信をいれたより
て香の事をもをちあ

たれしはの如よとすこと
肉象の信をもととせしめ
そのたれしは信りもあつよ
何れ馬を由とて馬を由
のしつたまはしと路を用ひし
都らんといふこと一やうに
井おいたりてす信りも
たれしはの信りもあつよ

親近の爲國東へてりた
 多しとせしとてちまひ力をあせし
 案のしお凌へし思ひこから
 ひのひりもが又へりてり
 東へてりてりてりてり
 池清

定城実証巻八 八 池清

書物貸本所

世界軍書翻譯書繪入讀本
 都る貸本類品澤山所持仕
 格別直股下重之働以上催間
 御一覽可采少板伏の奉願上ゆ也

東京牛込細工所拾二番地
 誠光堂
 池田清吉

